



現状・課題

- ① 生成AIが飛躍的に発展する状況の下、個別の知識の集積に止まらない概念の習得や深い意味理解を含め、学習指導要領が育成を目指す資質・能力を教師一人一人が適切に理解して授業づくりに反映することが不可欠。
- ② 一方、現行学習指導要領・解説は、大部の内容がPDFまたは冊子による単一の形式で提供されており、教師が日々の授業づくりで該当箇所をすぐに参照することや、学習指導要領から解説に移動すること、教科等や学年・学校種を横断して確認することなど、自分が見たい形式で簡易に見ることが難しい。こうした課題を解決するためには、デジタル技術を活用し、ユーザーエクスペリエンスを重視した形で提供することが不可欠。
- ③ 前回改訂と同様のスケジュールを仮定すると最短で令和10年度から新学習指導要領が一部先行実施になることを踏まえ、令和9年度にはデジタル学習指導要領の提供を開始する必要があるため、専門的知見を有する事業者とともに、デジタル学習指導要領の実現に向けた調査研究を行う。

事業内容

○デジタル学習指導要領の検討に向けた調査研究業務

デジタル学習指導要領に関する中教審の議論を技術的に実現し、それらの着実な実装を図るため、必要な機能や具体的な表示方法等（※）の検討を専門的知見を有する事業者へ委託する。

- （１）デジタル学習指導要領に必要な機能や具体的な表示方法等に関する検討
- （２）生成AIとの連携の可能性
- （３）その他デジタル学習指導要領の実現に向けて必要な事項の整理

（※）実現が期待される表示方法の例

- ・ 学習指導要領・解説を一体的に表示
- ・ 学習指導要領・解説における学校種間や教科等間の関連する記載の往還
- ・ 学習指導要領・解説とデジタル教科書・教材、教師用デジタル指導書間の関連する記載の往還

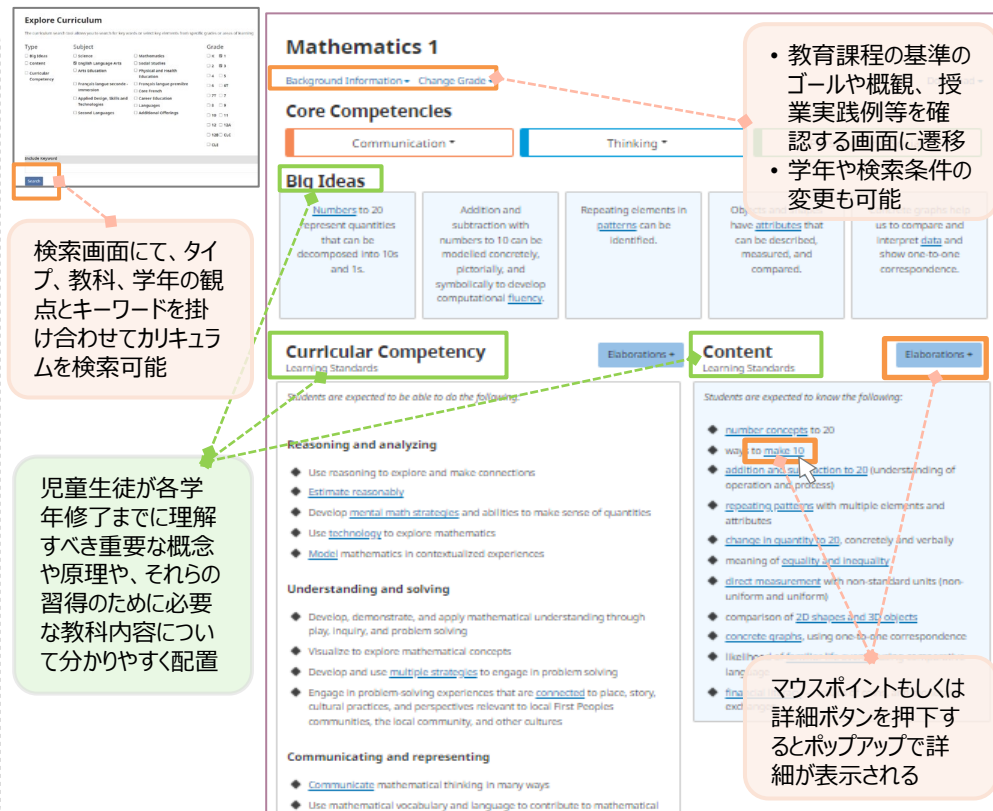
件数・単価

1 団体×約7000万円

交付先

民間事業者

デジタル学習指導要領の機能及び画面等
（カナダブリティッシュコロンビア州の事例によるイメージ）



（出典） <https://curriculum.gov.bc.ca/curriculum/search>（2024年12月13日閲覧）

（担当：初等中等教育局教育課程課）